

令和 3 年度 県立水戸農業高等学校自己評価表 (定時制)

目指す学校像	知・徳・体を身に付けた社会に有為な人材を育成する学校。生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校。魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校。体験学習・国際交流等を通してコミュニケーション能力を磨くことができる学校。地域社会の関係機関・団体・住民等と連携するとともにそれらに開かれた学校。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>[昨年度の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HR、立哨指導あるいは保護者との連携等を通じた反復指導で基本的な生活習慣を身に付けた生徒が増えた。 ・教員が授業を大切にしよう心がけた。生徒の授業に取り組む姿勢が良くなっている。 ・各科、学年、進路指導部等が一体となって指導をしたことにより、進路指導の成果が上がった。 ・感染症への適切な対応ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立とコミュニケーション能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせ、身だしなみや言葉使いに気をつけることで、社会の有為な形成者としての人格の完成を目指す。 ・豊かな人間性や素直な心を育み、コミュニケーション能力を育成することで、いじめ防止につながるような、より良い人間関係の構築に努める。 	A
<ul style="list-style-type: none"> ・各学年との連携を密にして、1年次から体系的な進路指導体制の確立を図る。 ・LHR等あらゆる機会を利用して、進路情報を適切に提供する。 ・進路講話やインターンシップ等により、職業体験活動の参加者数を増やし、望ましい勤労観・職業観の育成に努める。 ・道徳教育をあらゆる教育活動を通して行い、公共マナーの遵守と規範意識の高揚に努める。 ・部活動紹介や見学会等を実施し部活動加入を促す。 ・資格取得を奨励し、学習意欲の向上を図る。 ・最先端の職業教育を行う「スマート専門高校」を実現し、地域の産業界を牽引する職業人材の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上と系統的な進路指導体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。 ・生徒の関心・意欲を引き出し、思考力・判断力・表現力の育成につながるような観点別学習状況を踏まえた学習評価を徹底させる。 ・系統的な進路指導体制を確立させ、生徒の進路に沿った自己実現のための、適切な支援指導を行う。 ・就業体験、就農講話等を通して勤労観・職業観を育成し、キャリア教育の充実を図る。 ・各種資格取得に向けた取組を奨励する。 	A
<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ指導を中心に規範意識を高め、規則を守る生徒を育てる。 ・各学年との連携を密にして、1年次から体系的な進路指導体制の確立を図る。 ・LHR等あらゆる機会を利用して、進路情報を適切に提供する。 ・進路講話やインターンシップ等により、職業体験活動の参加者数を増やし、望ましい勤労観・職業観の育成に努める。 ・道徳教育をあらゆる教育活動を通して行い、公共マナーの遵守と規範意識の高揚に努める。 ・部活動紹介や見学会等を実施し部活動加入を促す。 ・資格取得を奨励し、学習意欲の向上を図る。 ・最先端の職業教育を行う「スマート専門高校」を実現し、地域の産業界を牽引する職業人材の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活様式を創造しながらの特別活動及び部活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動、社会教育活動、環境美化活動等への積極的な参加を促す。 ・定通体育大会への取組を通して部活動への意欲を高めるとともに、大会参加人数を増やす。休業日における部活動と勤労活動の日程のバランスを指導する。 ・生徒が、HR活動等を中心として、各教科と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育む。その際、その記述をもとに対話的に関わることによって、生徒の自己実現につなげる。 	A
<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得を奨励し、学習意欲の向上を図る。 ・最先端の職業教育を行う「スマート専門高校」を実現し、地域の産業界を牽引する職業人材の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と安全教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心身の健康に資するよう保護者、養護教諭、スクールカウンセラー等との連携を密にする。(特別支援教育専門家との連携) ・生徒及び職員の健康管理に努め、新型コロナウイルス感染症等の防止、健康の保持増進を図る。 ・自然災害等に対する具体的な行動計画を作成し、実効性ある訓練を行う。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・農業専門教育の充実と地域連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業への取組を推進することで、魅力ある農業教育を実践し、農業後継者及び関連産業技術者の育成を図る。 ・プロジェクト学習や各種発表会・競技会等に積極的に取り組ませ、学校農業クラブ活動の充実を図る。 ・開かれた学校づくりを継続・発展させるとともに、地域と連携した体験学習(インターンシップ等)の充実を図る。 ・資格取得への積極的な取組と合格率の向上を図る。 ・GIGAスクール構想、BYODの推進による学校における高速通信ネットワークの整備を完了した上で、生徒たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現を図る。 ・Society5.0時代における地域の産業を支える職業人育成を進めるため、専門高校においてデジタル化対応装置の環境を整備することにより、最先端の職業教育を行う「スマート専門高校」を実現し、地域の産業界を牽引する職業人材の育成を図る。 	B

別紙様式2 (高)

		・働き方改革の推進	・学科ごとに業務内容の見直しや再点検等による事務改善・効率化(スクラップアンドビルド)を積極的に推進、最終的には業務量の削減に努める。 ・管理職が率先して、有給休暇等を取得し、教職員一人ひとりの意識改革の醸成とそれに伴う校務の効率化と質の向上に向けて主体的に取り組むことで、効果的な教育活動を具現化する。	A	
三つの方針		具体的目標		評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクールポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	地域社会の役割の一端を担える力を備え、社会の変化に柔軟に対応し、主体的に社会に関わることができる人材の育成		A	A 各学年において進路実現に向けた適切な目標の設定 校内外での体験活動が円滑に展開できるよう地域産業や機関との連携体制の構築 説明会をとおして、学校が期待する生徒像を明示
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	生徒一人ひとりの多様な進路希望や学習のニーズに合わせた教育課程において、体験的な学びから知識・技術を確実に身につけ、就職から進学までの進路希望を実現する		B	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	学科の特色に応じた専門教育に取り組む姿勢があり、チャレンジ精神旺盛で、夢の実現に向けて自ら主体的に考え行動しようとする意志を持った生徒		A	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教務部	教育活動が円滑・効率的に機能するような取組の研究 基礎学力の向上	教育課程に基づいた教育活動の定着を図る。		A	A ・遠隔授業の実施に向けた研修会等を定期的実施するなどの対応が必要である。 また、基礎学力の向上に向け教科等横断的な学習の実現に向けた取り組みが課題である。指導と観点別学習状況評価の一体化に努める。
		ICT機器の充実及び効果的な活用方法を研究する。		A	
		授業研究(授業参観等)を実施し、授業内容の充実を図る。		A	
		授業に対する取組方法や授業改善計画を基に、より一層質の高い授業を展開する。		A	
		観点別評価を基にシラバスを作成し、評価の適正化を進める。		B	
	資格取得に向けての取組を強化する(全体計画・指導計画の検討)。		B		
広報活動の充実	水農体験・学校公開やホームページの充実などを通して学校外へ積極的に情報を発信していく。		B		
	積極的に中学校訪問を実施する。		A		
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	朝の校門指導を継続実施し、制服を整えさせる。		B	B ・遅刻する生徒が一日平均80人と多いため遅刻回数に応じた丁寧な指導を導入する必要がある。 ・教職員で取り組んでいる身だしなみ指導の共通行動が徹底できていない。生徒指導部が学年主任や学科長と連携し、共通行動がとれるように努力する必要がある。 ・生徒が主体的に身だしなみを整えることができるように、価値観教育を日々実施する必要がある。 ・バイク通学者の指導が不十
		授業開始時間の着席を厳守させ、授業に取り組む態度を育成する。		B	
		挨拶の励行や身だしなみ・言葉遣い等、学校生活における基本的生活習慣を確立させる。		B	
		ルールや決まりを守り秩序ある生活ができるよう、特別指導を取り入れ、生徒の生活改善を図る。		A	
		授業の遅刻を防止し、時間の大切さを身に付けさせる。		B	
	安全な学校生活環境の維持	貴重品の自己管理を徹底させ、盗難や紛失防止に努める。		A	
		自転車・バイク通学者に対する安全指導の継続と交通ルールを守った運転を励行させる。		B	
		校門指導等を通して、登下校の安全を確保する。		B	
		薬物乱用防止教室やケータ安全教室等の各種講話を通して、法律や規則を守り被害に遭わない生活ができるようにする。		A	
	心の教育の推進	農業教育や道徳教育を通してモラルの向上と命の大切さに気付かせる。		B	
		教育相談やカウンセラー、担任との面談等を通して学校生活への適応と自己実現を促す。		B	
		ボランティア活動・交流活動・体験活動等への参加を促し、自らの立場を理解して他を思いやる心を育成する。		B	
	いじめ防止対策	未然防止として、授業やホームルーム活動等を通し生徒の規範意識を高めさせる。		B	

別紙様式2 (高)

		早期発見として、アンケート調査を実施し実態把握に努める。また、生徒や保護者と相談できる環境を整える。	B		分な部分がある。日々の巡回点検や学期ごと定期点検の実施することで、適切なバイクで通学できるように努める。
		早期解消に向け被害者を保護し、速やかな実態把握及び加害者の対応にあたる。	B		
		保護者や警察、相談所等と連携し情報交換を行う。	A		
		教職員の共通理解と指導力向上を図るための研修を充実させる。	A		
特別活動部	部活動の活性化	部活動の加入率向上を目指し、運動部だけでなく文化部の活動も活性化を図る。	B	B	・部活動加入率の向上 ・生徒が積極的に学校行事に参加できるよう学校行事を充実させる。
		活動の成果を高めるためのリーダーの育成を図る。	B		
		部活動の活動場所や時間帯について、全日制との調整を図る。	A		
		ホームルーム活動、学校行事との連携を深めた各種委員会活動の充実を図る。	A		
	学校行事の充実	HR活動等を中心として、各教科と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育む。その際、その記述をもとに対話的に関わることによって、生徒の自己実現につなげる	A		
		水農祭の内容など計画立案の再検討と会場の環境整備を図る。	B		
成達会活動の充実	各種学校行事への積極的な参加を通して、生徒に達成感を体験させるとともに、クラスの連帯意識を高める。	A			
	ホームルーム活動、学校行事との連携を深めた各種委員会活動の充実を図る。	B			
キャリアパスポートの活用	HR活動等を中心として、各教科と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育む。その際、その記述をもとに対話的に関わることによって、生徒の自己実現につなげる	B			
進路指導部	系統的な進路指導の充実 (多様な進路実現への対応)	4年間を見通し、ホームルームでの進路指導の充実を図る。	A	A	・1学年から進路に対する意識づけ ・課外への出席者を増やす。 ・職業観の育成と基礎学力の向上
		学年別の進路講話、進路ガイダンス、面接指導を系統的・計画的に行う。	A		
		各種進路情報の収集、積極的活用、情報の共有のために全日制との連携を図る。	A		
		係分担を明確にし、各学年との連携を強化する。進路指導を組織的に行う。	A		
	進学指導の充実	推薦・AO入試・小論文対策・作文やレポートの作成指導・面接指導を充実させる。	B		
		進学対策のための課外を実施する。	B		
就職指導の充実	就職対応の模擬面接指導、履歴書や礼状の書き方などの添削指導を早期に充実させる。	A			
	積極的な企業開拓と継続的な訪問を実施し、就職情報の提供・共有を図る。	A			
勤労観・職業観の育成	インターンシップへの積極的な参加、体験型ガイダンスや進路講話を充実させる。	A			
保健厚生部	生徒の健康安全に対する管理運営	健康診断の実施とともに、保健日誌を活用して生徒の健康状態を把握する。	A	A	・感染症対策のため、衛生用品の供給と生徒教職員への啓蒙を継続する。 ・感染状況を見極めながら、各種行事の計画立案を行い円滑な実施を図る。 ・全職員の協力のもと、全校清掃活動を推進する。 ・教職員の健康増進のため、働き方改革を推進する。
		感染症対策及びアレルギーを持つ生徒への迅速な対応に万全を期す。	A		
		生徒の安心・安全のため、スクールカウンセラーなど関係機関との連携を図る。	A		
	校舎内外の学習環境の安全と美化	清掃区分の明確化及び担当教員による指導・監督の徹底に努める。	A		
		清掃用具の管理と円滑な供給に努める。	A		
	防火防災対策の徹底	暖房器具の安全な利用を指導する。	A		
綿密な計画の下、避難訓練、降下訓練及び消火訓練を実施する。		B			
教職員の働き方改革の推進	教職員が、健康的に仕事をして、教育活動の質を高めるために、一人ひとりが、一週間に一度定期退勤をする。	A			
	教職員のストレス軽減のために、相談体制の拡充を図る。	B			
図書部	本校の教育目標に応じた学校図書	農業教育の専門高校として、関係書類の整備に努める。	B	A	・利用者を増やすために、図

別紙様式2 (高)

	書館作りの研究	本校の文化センターとしての役割を果たすために、図書・視聴覚資料等の整備に努める。 職員研修の成果として、紀要を発行する。	A A	B	<p>書のアピールを積極的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書委員の活動をさらに活性化し、閲覧室の環境美化に力を入れる。 ・授業での活用を促す。
	学校図書館を利用した教育の充実	教科指導とのつながりをもった教育資料の充実に努め、授業・自主学習の支援をする。	B		
		校内読書感想文コンクール、図書委員研修会等の開催や広報紙の発行により、読書活動の啓蒙を図り、各種情報の収集と発信に努める。	A		
		図書委員会活動を活発にし、生徒の読書活動の活性化を図り、図書館利用者を増やす。	A		
	視聴覚機器の充実と利用	授業で利用できるソフトと機器の充実を図り、広く授業・教育活動の場として提供する。	B		
	学校図書館の施設・設備の充実	視聴覚室や閲覧室の学習環境の整備を図る。書庫の書籍の管理環境を改善する。	A		
司書作業の研修と蔵書の整理	利用しなくなった書籍・ビデオ等の除籍作業をし、蔵書点検を進め書籍の管理を図る。	A			
渉 外 部	P T A行事参加の促進	P T A行事等について確実に保護者に連絡をするための、新たな方法を模索していき、P T A活動への参加率を向上させる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革を考えた上で、引き続き会員の保護者に連絡する方法を検討する。 ・支部会や学年委員の内容と必要性を再度確認していき、組織自体のスリム化を図る。
		P T A行事と運営委員会を同日に設定する等、効率よい開催を目指す。	B		
	P T A支部活動の持続	支部活動への会員の参加率を増やすため、運営委員会等において、支部活動の活性化を模索する。	C		
	校外生徒指導の実施	校門・後台駅での登校指導を多くの会員で実施していく。	B		
	主催行事の充実	水農祭・公開講座・視察研修等の本部主催行事は工夫を凝らし、安全で安心できる環境を整え参加率を高める。	C		
広報活動の充実	広報紙・HP等での行事の案内や報告等、スピディーで、わかりやすくP T A活動を広報していく。	B			
農 場 部	農業後継者・農業関連産業従事者の育成	コロナウイルス感染拡大防止を徹底しながら、校外実習体験活動を推進する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業実現に向けた圃場や施設のICT化を継続して進め、それらを有効に活用した実習や実験を行うために職員の資質向上や年間指導計画の見直しを行う。 ・ポストコロナ時代を見据えた実習・実験や体験活動の在り方について校内外で検討し、安全で充実した学習活動ができるようにする。 ・本県で開催される農業クラブ関東大会を成功させる。
		各学科の専門性を生かした資格取得を計画し、合格率向上への指導を充実させる。			
		規格・認証等（GAP、HACCP、JAS、GI）やSDGsの教育を推進する。			
		自宅就農、雇用就農者、新規就農、それぞれに対応した就農支援を充実させる。			
開かれた学校づくりを継続・発展と地域と連携した体験学習の充実	コロナウイルス感染拡大防止を徹底しながら、交流活動や校外活動を推進する。	A			
	幼稚園児や小学校児童に対し、農業体験活動の指導・援助の学習を展開する。				
	産官学連携を推進し、地域資源開発や地域活性化に向けた学習活動を推進する。				
農業クラブ活動の充実	プロジェクト活動や各種発表会・競技会等への積極的な取り組みを支援する。	A			
	関東地区学校農業クラブ連盟大会令和4年度茨城大会に向けた準備をするなかで、生徒の農業クラブに対する意欲や態度を醸成する。				
スマート農業実現に向けた圃場整備	スマート農業実現に向け、圃場や施設のICT化をすすめると同時に、それらを有効に活用した実習や実験のあり方を検討する。	B			
1 学 年	基本的な生活習慣の確立	規律ある生活習慣を身に付けさせるために、服装髪指導に力を入れる。また、適切なコミュニケーション力と規範意識が身に付くよう、集会やホームルーム・授業や実習においても継続して指導していく。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみや挨拶、時間厳守等の日常生活については、日々丁寧な指導を続けてきたので、ある程度は確立してきた。今後は、ひとりひとりの現状と希望にそった進路指導と校内での活動推進を充実させたい。
	進路指導の充実	1年次より勤労観・職業観を育成するため、進路指導部等と連携し、課外授業やガイダンス等を実施する。また近年基礎学力が重要視されているため、資格取得に向けての積極的な取り組み等を通して、学習する習慣を身に付けさせる。	B		
	活力ある生徒の育成	運動部・文化部等への加入やボランティア活動、また農業クラブ活動への積極的な参加を促すことで、活力ある生徒の育成を目指す。	B		

別紙様式2 (高)

2 学 年	規範意識の確立	規律ある生活習慣を身に付けさせるために、引き続き服装髪指導に力を入れ、日頃の小さな取組を積み重ねていく。また、規範意識を持った行動ができるよう、集会やホームルーム・授業や実習の中でも継続して指導していく。	A	A	・生徒の特性や発達状況をよく職員間で共有し、教育相談的配慮をもって、生徒個人個人に合わせた丁寧な指導を行っていく。
	基礎学力の向上	生徒が落ち着いて授業に取り組める環境を整える。放課後の課外授業を充実させ、基礎学力の向上を目指す。英語検定等の検定試験を積極的に受験させる。	B		
	進路指導の充実	進路ガイダンスや体験を通して勤労観や職業観を育てる。進路希望を明確にさせるとともに、希望の実現のために課外学習や資格取得に積極的に取り組むように促す。	A		
卒 学 年	進路希望の実現	自己の進路実現のための目標を立てさせ、個々の進路に応じた進路指導を行う。	B	B	・卒業学年として、自覚を持った学校生活を送ることができた。
	基本的な生活習慣の定着	家庭との連携を密にして、無断での欠席・遅刻・早退を防止する。	A		
		進路について意識させ、望ましい態度や正しい言葉使いなどができるようにする。	B		
	規範意識の高揚	卒業学年であることを自覚させ、目標を持った生活を送らせる。	A		
ルールを守ることの重要性を認識させ、自ら善悪の区別ができるようにし、社会人としての自覚を持たせる。		A			
農 業 科	農業教育の充実	魅力ある農業教育を工夫し、農業や自然環境を大切にする態度を育成する。	A	B	・農業教育について理解を深めさせることができた。 ・学習環境の美化は徹底することができなかった。 ・進路について、各個人に合った指導がスムーズに行えなかった。
		農作物の育成を通して、思いやりや環境への関心を高める。	A		
		専門教育学習（プロジェクト学習等）を推進する。	A		
	学習環境の安全と美化	農場実習棟や更衣室等の清掃区分を明確にし、指導・監督の徹底に努める。	B		
		実験実習室内外の美化及びごみの分別の徹底と軽量化に取り組む。	B		
	確かな学力の定着	教材を精選し、基礎学力を身に付けさせる授業展開を行う。	A		
		基本的な学習態度の育成を図り、成就感を味わえるような授業展開をする。	A		
		個の能力に応じた指導により、基礎学力の向上に努める。	A		
	生徒理解の充実	生徒・保護者との面談機会を確保する。	A		
		保護者や出身中学校と密接に連絡を取り生徒理解に努める。	A		
	進路指導の充実	ホームルームや道徳の時間を中心に、自己の将来を見つめさせ、その展望を考えさせる。	B		
		アルバイト等の社会体験を通して、早期から進路意識を啓発する。	B		
進路意識を啓蒙する取組を、学年毎に企画・立案し、進路指導の充実を図る。		B			
ハローワークとの連携を密にし、進路実現に努める。		B			
ホームルームや道徳の時間を中心に、自己の将来を見つめさせ、その展望を考えさせる。		B			
自信を持てる体験学習等の充実	生徒が自信を持てる何かを見付ける取組をする。	B			
	インターンシップ等、生徒が自分に自信を持つことができる体験活動を充実させる。	A			
基本的な生活習慣の定着	常に元気なあいさつが交わせる明るい生活環境を創る。	A			
	人の話を聴ける態度を身に付けさせる。	B			
	一人一人に応じた適切な教育や支援を実践する。	A			
国 語 科	基礎学力の向上	生徒の実態を踏まえ授業の展開を工夫し、基礎・基本の定着を図る。	A	A	・生徒の学習意欲向上に向けて、さらに授業展開の工夫を行う。 ・ICTを活用し授業を活性化させる。
		授業参観を実施し、学習指導の手だてや工夫を協議し指導力の向上に努める。	B		
		漢字力向上のため、読み書きを授業や定期考査に継続的に取り入れる。また、漢字学習への意識向上や定着のため、繰り返し自ら練習する姿勢を身に付けさせる。	A		
	表現力の向上（進路対策）	目的や場に応じて自分の考えを文章にまとめる力を育成する。	B		
		生徒の進路に応じた個別指導を充実させる。	A		

別紙様式2 (高)

地歴・公民科	日本国及び世界の国々が形成される歴史的過程と地域的特色の違い及び現代の社会についての理解と知識の深化を図る。	教科書のみならず、新聞や視聴覚教材など多種多様な教材について ICT 機器等を用いながら、授業内容を分かりやすく伝える工夫をする。また適宜問いかけを入れながら、理解度を確認していく。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な学習活動を促すため、学習内容や方法の具体的工夫について研修を行う。 ・ICT 機器を活用した授業を展開できるように教員間での情報交換や研修に取り組む。
		基本的な内容を精選し、それぞれの科目の特徴を生かした指導内容を構成する。	B		
	現代の国際社会に主体的に生きる民主的・平和的な国家・社会の一市民として必要な自覚と資質を涵養する。	授業に臨む姿勢を整えさせる。内容としては、時事的な現在進行形で起きている社会事象も適宜扱う。	A		
		ノート提出・小テストの実施等を定期的に行い、生徒が現代社会に必要な基礎的な知識・教養を身に付けられるよう指導する。	B		
数 学 科	基礎学力の向上	基礎・基本の定着を図るため、教科内で積極的に情報交換し生徒の実態に沿った授業を展開する。 基礎学力が定着していない生徒へ個別指導を実施し、基礎の定着を図る。 進学希望の生徒に対して、個別に就職試験対策の課外を実施し対応する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望の生徒に対する個別の課外が十分でなかった。 ・教科として学年と連携し、生徒の学習の機会を確保するのが課題である。
	数学検定資格取得の奨励	学期に1回を目安に実施し、資格取得を積極的に促し、課外や個別指導を実施する。	A		
理 科	教員の指導力の向上	積極的な授業公開や、授業内容や指導法について情報交換を行い、自己研鑽に努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の特性に合わせた教材や指導法を精選し、理解を深める。 ・SDGs に関連させ環境問題などに触れながら理科への興味・関心を高めていく。
	基礎学力の向上	各科の学習内容と関連した授業内容を精選し、本校生にあった教材を作成する。	A		
	興味・関心の向上	科学のトピックスの紹介などを通して、農業と理科の関連性を理解させる。	A		
	進路指導への積極的な関わり	進学者を対象にした生物・化学分野の課外の実施と個別指導を充実させる。	B		
保健体育科	協調性や協力性の育成	生涯にわたり継続して運動に親しむ力の育成を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症や新型コロナウイルス感染拡大防止に応じた学習指導の工夫・改善し、授業実践する。
		集団としてのきまりを守り、活動できる体育学習を展開する。	A		
		目標の解決を目指して仲間と協力し、運動に取り組ませる。	B		
芸 術	基礎学力の向上	提出物を確認し、生徒の技量を確認する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の感性を育てるための教材を研究し、生徒に応じた教材の精選をする。
		名品・名跡を鑑賞し、自己の向上を図らせる。	A		
英 語 科	基礎学力の向上	提出物を確認し、生徒の技量を確認する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物や授業中の取り組みを参考に、生徒の特性に合わせた指導を行い、できる限り個別に対応する。 ・感染対策を徹底し、授業を実践する。
		名品・名跡を鑑賞し、自己の向上を図らせる。	A		
		教科書やノートの準備等、授業に臨む態度を確立させる。	A		
	モチベーションの向上	ALTを活用し、より実践的な生きた英語を学ぶ機会を与える。	A		
		簡単な内容を理解させ自信を付けさせ、学習のモチベーションを高めさせる。	A		
		資格取得の奨励	授業中、積極的に資格取得を呼びかけ、英検対策の課外・面接を積極的に行う。		
家 庭 科	家庭生活の課題を主体的に解決する能力の涵養	STEP英検等、より上位の資格取得を奨励する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き感染対策を徹底し安全で効果的な実験実習を行う。
		体験学習・視聴覚教材の利用・新聞記事の活用などにより生徒の興味・関心を高め、家庭生活をより身近な問題として捉えさせる。	A		